

# Asia Indicators

発表日: 2023 年 12 月 15 日(金)

食料インフレを受けてインドのインフレは再び加速 (Asia Weekly(12/8~12/15))

~オーストラリアの雇用環境は依然として大都市部を中心に堅調さが続いている~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/8(金)	(台湾) 11 月輸出(前年比)	+3.8%	+4.6%	▲4.5%
	11 月輸入(前年比)	▲14.8%	▲2.9%	▲12.3%
12/9(土)	(中国) 11 月消費者物価(前年比)	▲0.5%	▲0.1%	▲0.2%
	11 月生産者物価(前年比)	▲3.0%	▲2.8%	▲2.6%
12/11(月)	(マレーシア) 10 月鉱工業生産(前年比)	+2.7%	+2.4%	▲0.5%
12/12(火)	(フィリピン) 10 月輸出(前年比)	▲17.5%	--	▲6.3%
	10 月輸入(前年比)	▲4.4%	--	▲14.1%
	(インド) 11 月消費者物価(前年比)	+5.55%	+5.70%	+4.87%
	10 月鉱工業生産(前年比)	+11.7%	+10.0%	+6.2%
12/13(水)	(韓国) 11 月失業率(季調済)	2.8%	--	2.5%
12/14(木)	(ニュージーランド) 7-9 月実質 GDP(前年比)	▲0.6%	+0.5%	+1.5%
	(オーストラリア) 11 月失業率(季調済)	3.9%	3.8%	3.8%
	(フィリピン) 金融政策委員会(翌日物借入金利)	6.50%	6.50%	6.50%
	(台湾) 金融政策委員会(政策金利)	1.875%	1.875%	1.875%
12/15(金)	(インドネシア) 11 月輸出(前年比)	▲8.56%	▲9.36%	▲10.43%
	11 月輸入(前年比)	+3.29%	+0.20%	▲2.42%
	(中国) 11 月鉱工業生産(前年比)	+6.6%	+5.6%	+4.6%
	11 月小売売上高(前年比)	+10.1%	+12.5%	+7.6%
	11 月固定資産投資(年初来前年比)	+2.9%	+3.0%	+2.9%
	(フィリピン) 10 月海外送金(前年比)	+3.0%	--	+2.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

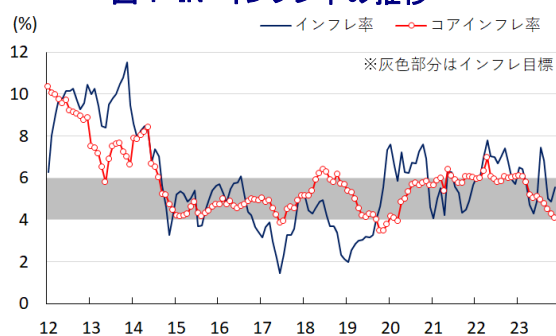
## [インド]~穀物や生鮮品を中心に食料インフレ圧力が強まるなか、インフレは再び加速も目標域に留まる推移~

12日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+5.55%となり、前月(同+4.87%)から伸びが加速している。前月比は+0.54%と前月(同+0.65%)からペースこそ鈍化するも2ヶ月連続で上昇しており、国際原油価格の調整の動きなどを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移をみせる一方、雨季(モンスーン)の少雨を受けたカリフ(雨季作)の低迷による供給懸念を反映して生鮮品や穀物などをはじめとする食料品価格は上昇の動きを強めており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まってい

ることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.11%と前月（同+4.26%）から鈍化しており、インフレ率とともに中銀（インド準備銀行）の定めるインフレ目標（4～6%）の範囲内で推移する展開が続いている。前月比も+0.23%と前月（同+0.34%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格が落ち着きを取り戻していることを受けて輸送コストが安定していることに加え、通貨ルピー相場も落ち着いた推移が続くなど輸入インフレ圧力が後退していることも重なり、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価の上昇ペースも鈍化するなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

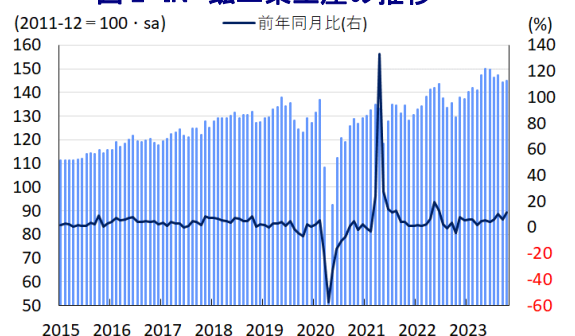
また、同日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+11.7%となり、前月（同+6.2%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの様相をみせている。分野別では、鉱業部門の生産は底打ちの動きを強める展開が続いているほか、経済活動の動向に左右される傾向が強い発電量も底打ちする動きをみせる一方、製造業の生産は力強さを欠く展開をみせており、生産全体の動向の重石となっている。種類別でも、インフラ関連の生産は弱含む展開が続いているほか、非耐久消費財関連の生産も下振れする展開が続く一方、耐久消費財の生産は一進一退の動きをみせており、こうした動きを反映して中間財関連や資本財関連など川上の段階の生産も一進一退の動きが続くなど、全般的に力強さを欠く推移をみせている。

図1 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 鉱工業生産の推移



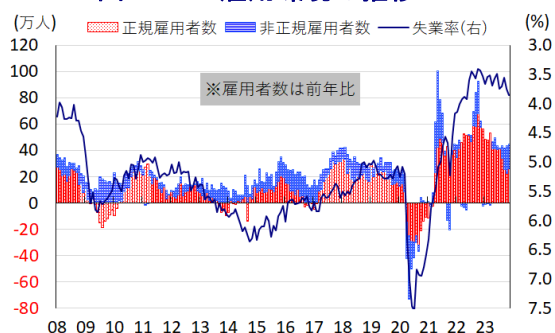
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成、季調値は当社試算

### 【オーストラリア】～大都市部を中心に雇用は拡大、労働参加率も過去最高水準が続く雇用環境は堅調に推移～

14日に発表された11月の失業率（季調済）は3.9%となり、前月（3.8%）から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+1.9万人と前月（同+3.2万人）から2ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別でも正規雇用に対する求職者数（同+1.1万人）のみならず、非正規雇用に対する求職者数（同+0.8万人）もともに拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きがうかがえる。一方の雇用者数は前月比+6.1万人と前月（同+4.3万人）から7ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別でも非正規雇用者数（同+0.4万人）のみならず正規雇用者数（同+5.7万人）もともに拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。地域別でも、最大都市のシドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州など、大都市部を中心に雇用は底入れの動きが進んでいる様子がうかがえる。なお、雇用環境の堅調さを追い風に労働力人口は前月比+8.0万人と前月（同+7.5万人）から2ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きが続いて

おり、こうした動きを反映して労働参加率は67.2%と前月（67.0%）から+0.2pt 上昇して過去最高水準で推移するなど、雇用環境の堅調があらためて意識される状況が続いている。

図3 AU 雇用環境の推移

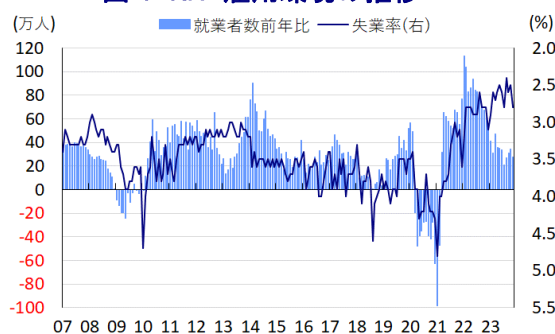


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国]～高齢層を中心に労働市場への参入意欲は依然高い一方、雇用を取り巻く環境は幅広く厳しさを増す～

13日に発表された11月の失業率(季調済)は2.8%となり、前月(2.5%)から0.3pt悪化している。失業者数は前月比+10.7万人と前月(同▲4.0万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。年代別では、10代において唯一減少する動きがみられるものの、20代以上についてはすべての年代で拡大するなど幅広く失業者数が拡大している様子が見え始める。一方の雇用者数は前月比▲7.9万人と前月(同+4.2万人)から4ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。年代別では、20代や60代以上といった層で拡大する動きがみられるものの、これら以外のすべての年代で減少しており、働き盛り世代などを中心に調整が強まる動きがみられる。雇用形態別でも非正規雇用者を中心に調整の動きが強まる動きがみられるなど、雇用を取り巻く環境は厳しさを増している。なお、雇用環境は厳しい状況にあるにも拘らず、労働力人口は前月比+0.3万人と前月(同+0.0万人)からわずかに拡大しており、年代別では60代以上の高齢層を中心に労働市場への参入意欲が強い動きがみられるなか、労働参加率は64.3%と前月(64.3%)から横這いで推移している。

図4 KR 雇用環境の推移



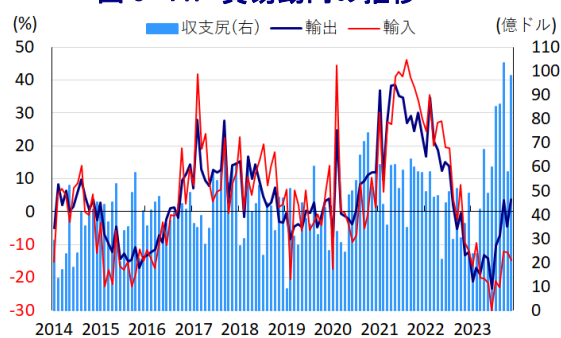
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～輸出額は前年を上回る伸びに転じるも、中国本土向けを中心に依然頭打ちの動きが続いている～

8日に発表された11月の輸出額は前年同月比+3.8%となり、前月(同▲4.5%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は▲0.3%と前月(同▲5.3%)から2ヶ月連続で減少し

ており、中期的な基調も頭打ちの様相を強めるなど底入れの動きに一服感が出ている様子が見え始める。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が頭打ちの動きを強めているほか、商品市況の調整の動きを反映して鉱物資源関連や化学製品関連など素材、部材関連の輸出も頭打ちの様相を強めるなど、幅広い分野で輸出が鈍化している。国・地域別でも、米国向けや日本向けは堅調な動きをみせているほか、ASEANなどアジア新興国向けにも底堅さが見え始めるものの、最大の輸出相手である中国本土向けが下振れしていることが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲14.8%と13ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲12.3%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲10.3%と前月（同+6.3%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど底入れの動きが一変している様子が見え始める。商品市況が調整の動きを強めていることを反映して鉱物資源関連の輸入額が下振れしているほか、輸出が頭打ちの動きを強めるなかで素材や部材関連の輸入に下押し圧力が掛かるとともに、機械製品関連の輸入も鈍化するなど幅広く輸入は弱含んでいる。結果、貿易収支は+97.95億ドルと前月（+57.72億ドル）から黒字幅が拡大している。

図5 TW 貿易動向の推移

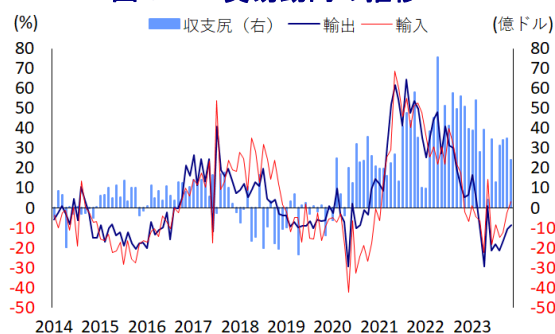


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

#### [インドネシア]～輸出入ともに一進一退の様相をみせて底入れの動きに一服感が出る様子が確認される～

15日に発表された11月の輸出額は前年同月比▲8.56%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びが続いているものの、前月（同▲10.43%）からマイナス幅は縮小している。しかし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は4ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせており、底入れの動きが続いた流れに一服感が出ている。財別では、農産品関連や鉱物資源関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、国際原油価格の調整の動きを反映して原油関連の輸出に下押し圧力が掛かっているほか、製造業関連の輸出も頭打ちして輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+3.29%となり、前月（同▲2.42%）から6ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせており、輸出同様に底入れの動きに一服感が出ている。国際原油価格の調整の動きを反映して原油や天然ガス関連の輸入額に下押し圧力が掛かっているほか、これら以外の輸入額も下振れする動きがみられる。結果、貿易収支は+24.12億ドルと前月（+34.74億ドル）から黒字幅が縮小している。

図6 ID 貿易動向の推移

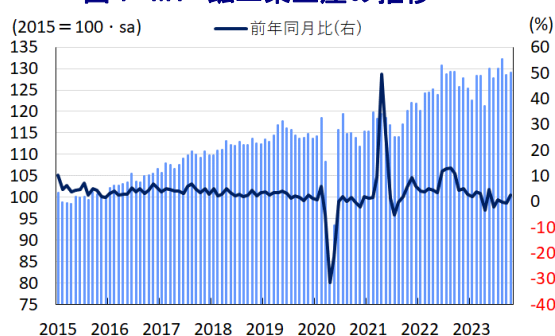


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～鉱業部門を中心に生産底入れの動きがうかがえる一方、製造業の生産は弱含む展開が続く～

11日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+2.7%となり、前月(同▲0.5%)から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+0.48%と前月(同▲2.84%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど勢いの乏しい動きが続いている。分野別では、製造業の生産は前月比▲1.69%と2ヶ月連続で減少するなど頭打ちの動きを強めている一方、鉱業部門の生産は同+10.25%と2ヶ月連続で拡大するなど対照的に底入れの動きを強めている様子がうかがえるほか、経済活動の動向を反映する傾向がある発電量も同+2.32%と5ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの兆しがうかがえる。

図7 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

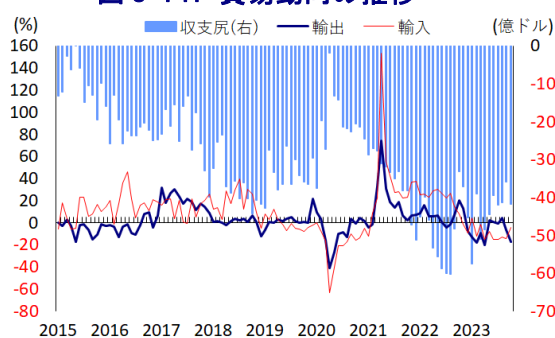
### [フィリピン]～中国景気の不透明感が輸出の重石となるなか、輸出の行方が輸入の足かせとなる展開が続く～

12日に発表された10月の輸出額は前年同月比▲17.5%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲6.3%)からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、農産品や鉱物資源関連の輸出も下振れするなど幅広く輸出が頭打ちの動きを強めている。国・地域別でも、ASEANなど周辺国向けの輸出や日本向けに堅調な動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けが大きく下振れしているほか、米国向けやEU向けなどが頭打ちしていることも輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲4.4%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲14.1%)からマイナス幅は縮小している。前月比は2ヶ月ぶりの拡

大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向に転じるなど底打ちしている様子がうかがえる。財別では、電子部品関連の輸入は頭打ちする動きをみせているものの、鉱物資源関連の輸入が底入れの動きを強めていることが輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は▲41.75億ドルと前月（▲35.82億ドル）から赤字幅が拡大している。

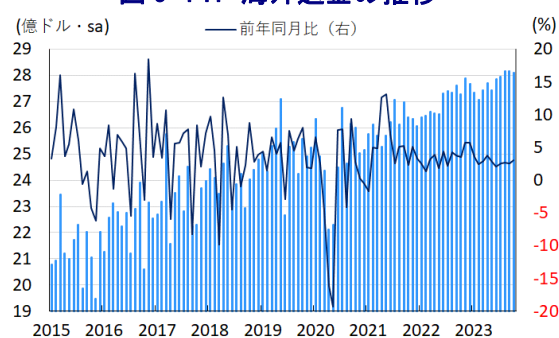
15日に発表された10月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+3.0%となり、前月（同+2.6%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は5ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きが続いた流れに一服感が出ている。同月は通貨ペソの対ドル相場はわずかに調整する動きが確認されているものの、ペソ建てで換算したベースでも前月比は減少するなど家計消費をはじめとする内需の重石となるものと見込まれる。日本やシンガポール、香港などアジアからの流入は底堅い動きがみられるものの、全体の4割を占める米国からの流入が頭打ちしているほか、国際原油価格の調整も影響して中東からの流入が下振れしていることが全体の重石となっている。

図8 PH 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図9 PH 海外送金の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成、季調値は当社試算

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。